

## アートマネージメント

伊東正伸＋岡部あおみ＋加藤義夫＋新見隆／著

●2003年4月初版1刷

p.68 表内（2001年、右欄）

（誤）野口里香

（正）野口里佳

p.139 後ろから5行目

（誤）日展の地方で圧倒的な観客動員数は

（正）日展の地方での圧倒的な観客動員数は

p.172 11行目

（誤）（ゼネコン各社など）

（正）（企業各社）

p.182 下線部を加筆

ギャラリーシマダ ※2003年、東京店閉鎖

p.183 下線部を加筆

現代彫刻センター ※2003年、閉鎖

p.184 下線部を加筆

ビューイングルームヨヨギ／ガレージ ※2003年、画廊閉鎖、事務所のみ営業

p.186 下線部を加筆

カサハラ画廊 ※2003年、画廊閉鎖、事務所のみ営業

p.188

（誤）ギャラリーKURANKI

（正）アート・コートギャラリー

●2004年4月初版2刷

p.185 コウジ・オグラギャラリー

(誤) …ジュリアン・オピーなどを扱う…も運営している。

(正) …ジュリアン・オピーなどを扱っていたが、2004年閉鎖、事務所のみ営業。

p.188 下線部を加筆

ギャラリー・ココ (2004年閉鎖)

p.240 1-4行目

(誤) 二〇〇二年からは渋谷のギャラリーTOMに会場を移し、二〇〇三年春まで神奈川県立近代美術館の堀元彰学芸員をゲストキュレーターに招き、若手作家の個展を開催した。新見隆教授を中心に、おもに芸術文化学科の学生が運営協力を行いながら、キュレーションをリアルタイムで学んでいる。

(正) 二〇〇二年度以降「αMプロジェクト」に刷新され、同年は渋谷のギャラリーTOM、二〇〇三年度からは京橋の ASK?に会場を移し、堀元彰氏、児島やよい氏、芸術文化学科の教授などをゲストキュレーターに招き、若手作家の個展を開催している。おもに芸術文化学科の学生が運営協力を行いながら、キュレーションをリアルタイムで学ぶ場となっている。

●2006年2月初版3刷

p.57 後ろから2行目

(誤) 花王株式会社

(正) 民間企業

p.58 1行目

(誤) 世田谷美術館の大島清次館長

(正) 大島清次氏

p.62 4行目

(誤) 広報庁 (USIA) が全米の各美術組織からプロポーザルを受け付ける一種のコンペ方式

(正) 国務省の教育文化局が全米のキュレーターからプロポーザルを受け付ける一種の公開コンペ方式

p.79 後ろから 9 行目

(誤) 二十以上の国際展

(正) 三十以上の国際展

p.81 ①ヴェネチア・ビエンナーレ

(誤) 約 30 カ国が参加する国別参加方式を中心に構成。

(正) 約 30 カ国を中心とする国別参加方式と、企画展示により構成。

p.81 ⑤ドクメンタ

(誤) 4~5年おきに開催される。

(正) 5年おきに開催される。

p.82 ⑭リヨン・ビエンナーレ

(誤) ゲスト・キュレーターとリヨン現代美術館キュレーターとの共同企画

(正) ゲスト・キュレーターとリヨン現代美術館との共同企画

p.83 ㉔越後妻有アート トリエンナーレ

(誤) 新潟県内の 6 市町村が主催する。第 1 回展は、約 762k m<sup>2</sup>の広大な地域に作品を点在させた。ほとんどの作品が屋外設置であり、一部は恒久設置される。

(正) 新潟県内の 6 市町村（当時）主催により始まった大地の芸術祭。約 762k m<sup>2</sup>の広大な地域に作品を点在させる「異色」の国際展であり、一部作品は恒久設置される。

p.83 最下段に下記を加筆

※2001 年以降に発足した主な国際展としては、釜山ビエンナーレ（2002）、広州トリエンナーレ（2002）、モスクワ・ビエンナーレ（2005）、シンガポール ビエンナーレ（2006）など。

p.84 6 行目

(誤) 広報庁（USIA）

(正) 教育文化局（ECA）

p.107 10 行目 下線部を加筆

(誤) 四氏が就任することとなった。

(正) 四氏が就任することとなった（括弧内は当時の所属・タイトル）。

p.124 註 13

(誤) …移行する。

(正) …移行した。また、芸術交流部展示課は、文化事業部造形美術チームとなった。

p.125 1行目

(誤) …構成されている。

(正) …構成されていたが、基金の独法化にともない解散した。

p.128 最終行に下記を加筆

※横浜トリエンナーレは第二回展が二〇〇五年に、第三回展が二〇〇八年にそれぞれ開催された。

p.182

(誤) ■東京地域の主な完全企画画廊 (2002年現在の状況)

(正) ■東京地域の主な完全企画画廊 (2009年現在の状況)

p.182 下線部を加筆

ギャラリーGAN ※現在休廊中

ギャラリー・ドゥ ※閉鎖

p.183 下線部を加筆

小宮山登美夫ギャラリー 京都にもギャラリー。

佐谷画廊 ※2008年、佐谷和彦氏死去のため閉鎖

p.183 タカ・イシイギャラリー

(誤) アメリカのサンタモニカ

(正) 京都

p.184 下線部を加筆

ハヤカワマサタカギャラリー ※現在休廊中

フジテレビギャラリー ※閉鎖

p.184

(誤) ビューイングルームヨヨギ／ガレージ

(正) ビューイングルーム

p.184 ビューイングルーム

(誤) 写真家の金村修

(正) 高松次郎

p.185

(誤) ■名古屋地域の主な完全企画画廊 (2002年現在の状況)

(正) ■名古屋地域の主な完全企画画廊 (2009年現在の状況)

p.185 下線部を加筆

ギャラリーセラール ※東京に移転

コウジ・オグラギャラリー ※現在休廊中

p.186

(誤) ■関西地域の主な完全企画画廊 (2002年現在の状況)

(正) ■関西地域の主な完全企画画廊 (2009年現在の状況)

p.186 ギャラリーヤマグチに下記を加筆

※ギャラリーヤマグチクレストバウに改名

p.186 ノマルエディションプロジェクト・スペースに下記を加筆

※ギャラリーノマルに改名

p.187

(誤) ■東京地域の企画及び貸画廊 (2002年現在の状況)

(正) ■東京地域の企画及び貸画廊 (2009年現在の状況)

p.187 ギャラリー21+葉に下記を加筆

※galley 21 yo-j に改名

p.187

(誤) ■名古屋地域の企画及び貸画廊 (2002年現在の状況)

(正) ■名古屋地域の企画及び貸画廊 (2009年現在の状況)

p.188

(誤) ■関西地域の企画及び貸画廊 (2002年現在の状況)

(正) ■関西地域の企画及び貸画廊 (2009年現在の状況)

p.188 アート・コートギャラリー (旧 ギャラリーKURANKI) 下記を加筆

「アートコート・フロンティア」や公募の「P&E」など、新人発掘に熱心なギャラリー。

p.188 サイギャラリー

「事業内容及び取り扱い作家など」上から4行分を削除

p.188 下線部を加筆

SUMISO ※閉鎖

p.189 下線部を加筆

ヴォイス・ギャラリー pfs/w

[2010.11.4 武蔵野美術大学出版局]